

# 学力向上に向けた取組

函館市立港中学校

## 1 課題

基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着  
学びを分かち合う授業が成立する学級風土の醸成

## 2 課題解決の具体策

課題の共有化による授業再構築と教師の「デザイン力」アップについて  
生徒と教師の共同作業による全校学力コンクール（CTGG）の実施

## 3 取組の概要

【全教師の課題の共有化による授業再構築と教師のデザイン力アップ】について

・全国学力学習状況調査や市が実施するCRTの分析では、基礎的・基本的事項は全国平均を上回っているか全国平均レベルと健闘しているが、活用や応用との間に相対的に大きな開きがあり、本校の課題となってきた。

各教科で本校の生徒の苦手とする事項（例：数学 平面図形，英語 接続詞）を洗い出し，小テストの実施や，授業の指導過程を構築する際に既習事項を生かした授業づくりを実践するなどして，不得意分野の克服を図った。  
自分自身で課題解決の道筋や結果を表現できなければ「本当の学力の定着」はないという認識に立ち，学びを分かち合うことによって表現力を醸成する教室の風土を重要視することにした。学級経営の基本である掲示物，ルール，小集団づくり等を再確認し，学級担任による力量の差を組織力により底上げを図った。

【生徒と教師の共同作業による全校学力コンクール（CTGG）の実施】について  
学級対抗による漢字，数学における基礎計算問題のグランプリを実施した。  
2度の開催であるが，数学には学年間のハンディ等を逆手にとり選択問題等を導入し，難易度の高い問題を選択することにより，高得点（高配点）を得られるように工夫した。  
教師と学習委員会との共同作業により，学力向上に向けた意識の共有化を図ることができた。

## 4 成果と課題

基礎的・基本的な知識や技能をしっかりと定着させたいという願いは，ともすれば一方的に知識を教え込んだり，一つの答えを求める授業に向かいがちである。一連の取組により，学習の広がりや深まりを作るとともに，生徒が理解したことを一般化（概念化）するための下地づくりができた。

本校の「学力向上」へ向けての取組は着実に成果をあげているが，低学力の生徒は依然として存在する。そのような生徒に，補充学習の機会をどれだけ保障し，学力の向上を図るのか，また他の生徒に発展学習をどのように進めるか，一人一人の生徒の「確かな学力」の定着を目指して徹底した評価・改善が必要である。